

1 主題

主体的・対話的に学ぶ児童の育成

～ICTを活用した授業作りを通して～

2 主題設定の理由

子供たちが、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善は欠かせないものとなる。

子供たちが主体的に学習する姿は、従来の一斉型の授業で知識・技能を一方向的に指導する形態では達成しにくいと考える。そのためには、単元の初めや途中段階で、身に付けたい力や活動時間を示し、ゴールを見通して活動させていきたい。ゴールに向かって、自らの学習を調整するために必要なものを見付けられる選択肢を与えることや、対話を通して様々な見方や考え方を知り、自信をもって最後まで粘り強く学習に取り組む姿を期待したい。

また、本校は、府中市より一昨年度プログラミング教育研究推進校、昨年度から GIGA スクール研究推進校として指定を受けてきた。昨年度 11 月より Chromebook が校内に導入されてからは教員も積極的に授業内で活用してきた。児童も新しい端末の新しい操作を覚えることを楽しんで取り組んできた。しかし、昨年度は Chromebook の導入が年度の後半であったこともあり、操作を楽しむことで満足している児童が少なくなかった。文部科学省の「GIGA スクール構想の実現に向けて」でも、PC 端末が鉛筆やノートと並ぶマストアイテムであることが記されている。つまり、PC 端末を使うことが目的ではなく、活動のツールのひとつとして、効果的な活用方法が求められている。新型コロナウイルス感染症により密を避けながら達成するためにも、やはり従来の学習方法から見直していく必要があると考える。

さらに、GIGA スクール研究推進校として、他校への実践を広めるための活動も同時に行うことで、市内の教員の ICT 操作スキルの向上と、ICT を用いた授業作りの実践の充実を図る。

このことから感染症対策を踏まえた上で教科のねらいに迫るために、上記の主題を設定した。

3 研究の方法

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 1 学期 | 教員の ICT 操作スキルを高める実技研修（クロムミニ研修も同時進行） |
| 2 学期 | 各ブロックから実践事例紹介・情報交換 |
| 3 学期 | 実技研修（講師は研推以外の方） |

4 研究構想図

学校教育目標

- 学び考える力
- 思いやる心
- 明るく元気

<学校の実態>

- ・一昨年度より Windows OS 端末を、昨年度より chrom ebook を児童が使用している。共に各教室・専科教室で無線 LAN が配備されているために端末使用可能である。
- ・各教室にてタブレット端末が保管されているために、PC 室における授業利用はない。

GIGA スクール構想の 実現に向けて

- ・ 1人1台の端末の活用
- ・ 公正な個別最適化
- ・ 教科の学びの深化

<児童の実態>

- ・ 中学年以上の児童の4割がオンラインゲームの経験があるなど、日常的にネットワークに接続をしている。また、授業におけるタブレット端末の使用頻度も高いため、情報機器に対する知識や技能も比較的高い。一方で例年高学年で SNS のトラブルが起こるなど情報モラルへの意識や規範意識が低い。
- ・ 課題に対して、解決方法を様々な視点から考えようとすることに苦手意識をもつ様子が見られる。

<保護者・地域の実態>

- ・ 児童が自宅で使用するネットワーク環境が十分でない家庭が全体の約 1/10 ほどある。
- ・ 一昨年度までは放課後子ども教室主催のパソコン教室が行われていたが、昨年度は実施されていない。
- ・ 家庭で情報モラルをどのように教えたらいいか悩まれている声もある。

研究主題

**主体的・対話的に学ぶ児童の育成
～ICT を活用した授業作りを通して～**

<研究仮説>

ICT を日常的に使えるようになったら、学び方や考え方が広がり、資質・能力を育成することができるだろう。

ICT 活用場面の充実

GIGA 研究推進校として

教科の横断（カリマネ）

教科のねらいに迫るための
効果的な活用

他校への講師派遣
市内全体への発信

情報活用能力の育成

感染症対策

情報モラルのルール化

選択できる学習方法

外部講師からの
情報提供

教員の ICT 操作スキル向上

脱！知識・技能の授業

目指す児童像

自ら学習方法を見つけて、課題解決ができる児童